

ヘルスケア対談 日本ヘルスケア協会・今西信幸会長×伊東精麦所・伊東清一郎社長

大麦一筋 93年のスペシャリストによる栄養機能食品 「大麦ポリフェノール」「大麦ベータグルカン」



今西信幸会長

「エネルギー補給」から「予防の中心」にシフトする食の意義

今西会長 伊東精麦所さんは創業から90年以上も大麦一筋で経営されてきましたね。伊東社長はどのような経営理念をお持ちでしょうか。

伊東社長 今年で創業から93年目になります。これまで大麦一筋で事業を展開し、近年では大麦の糠を活用した栄養補助食品「大麦ポリフェノール」「大麦ベータグルカン」を開発・商品化しています。

企業経営にあたっては「正しいことを、正しく行う」ということを常日頃から大切にしており、目に見えないところを大切にすることで、お客さまとの信頼関係が芽生えてくるものだと信じております。

今西会長 私も大麦という素材に大きなポテンシャルを感じています。これまで食は「エネルギー補給」という考え方がメインでしたが、近年では「予防の中心」という認識が変わってきています。その中で、最も大切なのは実績です。伊東精麦所さんは93年という歴史・伝統、つまり実績をお持ちですので信頼性が担保されており、まさに“大麦のスペシャリスト”だと言えるでしょう。これからの課題としては「伊東精麦所さんとユーザーをいかに結びつけるか」であると思います。それができたなら、より製品が普及していくものだと思います。

伊東社長 当社は麦焼酎55%、味噌用35%、残り10%が食品という売上

「食と健康アワード2021」で特別賞を受賞した「大麦ポリフェノール」「大麦ベータグルカン」「御島裸（長崎県産押麦）」を手掛けているのが伊東精麦所（本社：長崎県諫早市）だ。今回の日本ヘルスケア協会・今西信幸会長との対談のゲストに、同社の伊東清一郎社長をお招きし、大麦一筋93年の老舗企業が、ヘルスケア商材に参入したきっかけや、大麦の普及における課題について今西会長と語っていただいた。

（記事＝副編集長・佐藤健太）



伊東清一郎社長

ようやく製品化が実現しました。これが「大麦ポリフェノール」「大麦ベータグルカン」です。

今西会長 当たり前のことのように語られますが、医薬品や健康食品には安全性が最重要です。大麦には歴史がありますから、安全性は確立しているわけです。しかし、これまではエネルギー補給が目的だったため、どのような機能があるか、どのようなメリットがあるかということが考えられてきませんでした。医学や医療の進歩によって、思わぬ効能や機能があると分かってきました。ですので、これを作り手であるメーカーさんがアピールしていくべきだと思います。

伊東社長がおっしゃった大分大学のデータなどを活用し、企業の宣伝ではなく大麦の機能性をアピールすることが、将来の拡販につながっていきます。日本ヘルスケア協会もエビデンスのあることをバックアップさせていただきますので、ともに推進していきましょう。

構成比となっています。基本的に企業さまを相手に商売をしてきましたので、お客さまに向けてのアピールは実験段階ですし、大麦自体もまだまだマイナーな存在ですので、これから第一歩を踏み出していくところとです。

「大麦ポリフェノール」「大麦ベータグルカン」は、まだドラッグストアに展開しておらず、これからチャレンジしていこうと考えています。製造特許を取得（詳細は、<https://e-mugi.co.jp/patent/>）し、その製法を活用して製造された商品であり、非常にこだわりを持って開発しました。ドラッグストアは幅広い商品を取り扱い、利便性と専門性で地域の健康を守っている業態です。ぜひ、当社の「大麦ポリフェノール」「大麦ベータグルカン」を取り入れ、お客さまのQOLアップにお役立ていただきたいと思います。

普及に向けたキーワードは「作り手としての信頼性」「ユーザーからの信頼性」

今西会長 日本ヘルスケア協会の一つの役割として、良いヘルスケア製品はエビデンスを前面に情報発信していくことが挙げられます。現在の日本は、超高齢社会によって医療費が膨らんでいる状態で、公的医療を守るために予防＝ヘルスケアという方向にシフトしています。そのためにはエビデンスが非常に重要となります。伊東精麦所さんは日本ヘルスケア協会の会員でもありますので、こうした啓発にはぜひ当協会ならびに学術団体・日本ヘルスケア学

会をぜひ活用いただきたいと思います。

今後メーカーさんには、歴史や実績、品質の「作り手としての信頼性」と、お客さまからの評価である「ユーザーからの信頼性」がより大切になってきます。貴社は「作り手としての信頼性」という側面の心配は一つないと思います。ですが不安なのは、ユーザーに対してどのようにアピールするかということだと思います。そのために「どのチャンネルに、どんなアピールをしていくのか」ということを伊東社長とぜひ話し合っていければと考えています。日本ヘルスケア協会は健康長寿、つまり健康寿命の延伸を最大の課題に掲げていますから、そのツール・商品が上手く社会に出ていくことは、とても喜ばしいことなのです。

伊東社長 当社がヘルスケア商品に参入したのは約17年前です。大麦の商品を開発することで市場を活性化し、そして大麦の認知度を高めたいと考えたのが参入のきっかけです。

いろいろ調べていく中で、大分大学で大麦を研究した論文にたどり着き、これを読ませていただきました。大麦には非常に多くの機能性成分が含まれており、その中で当社はポリフェノールとベータグルカンに絞って製品開発をスタートさせました。約8年の年月を要しましたが、



「大麦ポリフェノール」



「大麦ベータグルカン」

——食は予防の中心！ いかに商品とユーザーを結びつけるか？